

平成 30 年度 放課後等デイサービス自己評価結果

ふりーだむ 子ども支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	改善内容または 改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習室と遊戯室を区分し構造化している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用児童の実態や活動内容に合わせ、基準を超えて配置している。	
	3	事業所の設備等において、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			フラットフロア、スロープや手すりなどはあるが今後必要に応じて設備の充実を検討する。
	4	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもたちの活動に合わせた空間になっている	○		午前・午後、毎日 2 回の清掃を行っている。スケジュールに沿って定期的な消毒を実施。	危険な箇所がないか定期的を確認したり、備品の入れ替えを随時行いたいと考えている。
業務改善	5	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			常勤職員での現状把握と再計画は随時行っている。さらに非常勤職員からも意見を吸い上げる機会を設けたい。
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向を把握し業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価および保護者向け評価の結果をふまえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価および改善の内容を、事業所の会報や HP 等で公表している	○		ホームページでの公表となる。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		親会社と評価方法については協議中である。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		全職員に対して、年間 8 回の内部研修を行っている。	来年度は職務内容に合わせて研修内容をより実践的な内容にしていく予定である。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画を作成している	○		毎月行っている職員会議において非常勤職員からも広く意見を求めている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			指導段階表は作成している。今後さらなる活用を図りたいと考えている。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		系列事業所にも意見を求め、客観的に内容を改善している。	職員会議等で定期的に非常勤職員からも意見をもらいながら、より工夫を行っていききたい。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用児童、保護者の反応を確認しながら常時改善を図っている。	今後はさらに系列事業所間でも活動プログラムの共有を行い、よりよい活動を企画したいと考えている。
	14	平日、休日、長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定して支援している	○		学校休業日は屋外活動を設定し社会経験を重ねられるような内容に設定している。	今後活動内容のさらなる工夫を行い、生活能力の向上や幅広い社会体験ができるようにしていきたい。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成している	○			
	16	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	○		日案を基に内容の確認・共有が随時できるようにしている。	
	17	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			非常勤職員から十分に意見の吸い上げができるよう時間の確保に努めた。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録用紙についても、適宜改善を図っている。	
	19	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換・子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			

	2 2	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当児がおらず現在は実施していないが、必要に応じて体制を整えられるようにしていきたい。
	2 3	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者の同意が得られる場合には、文書をいただくなどして情報共有に努めている。	
	2 4	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		保護者からの依頼に応じて移行支援会議等に参加している。	
	2 5	児童発達支援センターや発達障害者支援センターの専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		外部研修への積極的な参加を促している。	外部研修への参加を促進できるよう、周知を徹底し、必要な場合はシフトを調整するなどしていきたい。
	2 6	協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		子ども部会や管轄区へのネットワーク会議等に参加している。	
	2 7	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳を有効に活用できるように日々意識している。	
	2 8	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)の支援を行っている	○			必要に応じて行っている。
	2 9	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	3 0	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			保護者アンケートの結果を踏まえ、より相談しやすい雰囲気づくりを行うなど工夫をしていきたい。
	3 1	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者の要望、参加状況を踏まえて年度毎に計画している。	前年度は隔月保護者会を開催していたが、参加がないため今年度は見送った。来年度は開催を検討中。
	3 2	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	3 3	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		今年度はホームページを開設した。	現在のホームページを活用しながら、よりよい発信を行っていきたい。
	3 4	個人情報の取り扱いに十分注意している	○		事例検討を取り入れた研修を行うなどしている。	定期的な研修により、職員が個人情報保護を一層意識して業務に取り組めるように強化していきたい。
	3 5	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		スケジュールや利用予定表の配布、手順書作成などを行っている。	
	3 6	事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を図っている	○			個人情報保護の観点から、現在内容については検討中である。
非常時等の対応	3 7	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		今年度は熱中症対策マニュアルを策定し、予防に努めた。	防犯訓練については強化を図るためマニュアルの見直しを検討している。
	3 8	非常災害の発生に備え、定期的に避難・救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回防災センターの見学と避難訓練を行っている。	併設施設と合同のため周知が不十分であったと反省している。アンケートの結果を踏まえ、来年度は単独での避難訓練を実施する予定。
	3 9	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		てんかん発作などの研修を行っている。	全職員が適切な対応ができるよう、定期的な勉強会・研修を継続していきたい。
	4 0	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応をしている	○		保護者が医師から受けた指示を聞き取り、対応を行っている。	
	4 1	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			送迎時の事例を含め定期的に見直す機会を設け、意識化を図っていきたい。
	4 2	虐待防止をするため、職員の研修の機会を確保するなど、適切な対応をしているか	○			年1回の研修・事例検討を行っているが、必要に応じて研修会を増やすなどしていきたい。
	4 3	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	○		契約時に全利用者に対し説明を行っている。	職員全員が拘束のない支援を行えるよう、より細やかに対応のすり合わせを行っていきたい。